

令和6年度政務活動費の収支

会派名	町民の会	新誠会	矢巾未来の会	日本共産党 矢巾町議団	公明党	子育ても 老後も	強く やさしい矢巾
会派代表	水本淳一	昆 秀一	谷上知子	小川文子	小笠原佳子	高橋敬太	横澤駿一
所属議員 (議席番号順)	高橋 恵 吉田喜博 藤原信悦 高橋安子 廣田清実	ササキ マサヒロ 山本好章 赤丸秀雄	齊藤勝浩 村松信一	木村 豊			
収入	政務活動費①	1,152,000	768,000	576,000	384,000	192,000	192,000
支出	調査研究費	700,490	214,586	448,886	259,940	150,936	167,676
	研修費	-	10,500	2,625	2,625	5,210	30,000
	会議費	-	1,200	-	-	-	-
	資料作成費	-	-	-	-	-	-
	資料購入費	-	-	-	-	-	-
	広報費	-	212,012	-	-	-	-
	事務費	-	-	-	-	-	-
	合計②	700,490	438,298	451,511	262,565	156,146	197,676
収支差引残額①-②	451,510	329,702	124,489	121,435	35,854	▲5,676	7,833

※残額が生じた場合は町に返還します。また、不足した場合は個人負担となります。

令和6年度の主な調査研究・研修活動

	開催日	内容	参加会派
先進地視察	令和6年 5月7日	宮城県仙台市（宮城県立泉松陵高校） ・主権者教育を取り入れた総合学習の授業の見学	子育ても老後も
	令和6年 6月28日	岩手県釜石市・大船渡市・花巻市東和町 ・岩手大学釜石キャンパスにおけるチョウザメ養殖について ・株式会社テツゲン・メタウォーター・アクアアグリ（大船渡市）でのアクアポニックス（レタスの水耕栽培とチョウザメの養殖を組み合わせた循環型農法）について ・カブト虫ふれあい童夢（花巻市東和町）の運営について	矢巾未来の会 日本共産党矢巾町議団 公明党 子育ても老後も 強くやさしい矢巾
	令和6年 7月2日～4日	北海道網走市・北広島市・函館市 ・高齢者の居場所「高齢者ふれあいの家」の運営について ・北広島市のボールパーク構想について ・北海道大学函館キャンパスにおけるチョウザメなどの養殖研究について	矢巾未来の会 日本共産党矢巾町議団 公明党 子育ても老後も 強くやさしい矢巾
	令和6年 10月15日～17日	大分県臼杵市・豊後高田市 ・移住定住対策の取り組みについて ・住みたい田舎ランキング12年連続ベスト3を維持する取り組みについて	町民の会
	令和6年 11月14日～15日	茨城県石岡市・東京都千代田区 ・石岡スケートボードパークの調査について ・参議院議員との意見交換会について ・国立図書館の活用と地域図書館との連携について	新誠会 強くやさしい矢巾
	令和7年 2月5日	秋田県大館市 ・公共施設および観光施設の運営施策と利用状況について ・特産品とふるさと納税の取り組みについて ・歴史や地域特性を活かしたまちおこしについて	矢巾未来の会 公明党 子育ても老後も 新誠会（うち1名） 町民の会（うち1名）※自己負担
研修	令和6年 5月8日～9日	・オガールプロジェクト（紫波町）について ・ござ九商店（盛岡市紺屋町）における産官学連携の若者を巻き込むまちづくりについて ・共生社会の実現に向けたヘラルボニーギャラリー（盛岡市開運橋通）の取り組みについて	強くやさしい矢巾
	令和6年 7月29日～30日	・琵琶湖と暮らしを守る「健康しが」について ・ローカル線「近江鉄道」維持存続のための取り組みについて（オンライン研修）	公明党
	令和6年 8月5日～6日	・公民連携および公共施設再編について（オンライン研修）	子育ても老後も
	令和7年 1月20日～21日	・「福祉」というテーマのもと、今後のまちの未来や地方行政に求められる役割について（オンライン研修）	公明党
	令和7年 2月3日	・矢巾町農商工共創協議会との学習会 ①町内の産業・商業・工業の状況について ②令和6年度の取り組みと令和7年度に向けた方針について	新誠会 強くやさしい矢巾 矢巾未来の会（うち1名） 日本共産党矢巾町議団（うち1名） 町民の会（うち1名）※自己負担
	令和7年 3月10日	・今後の自治体予算の動向について（オンライン研修）	子育ても老後も

政務活動費は、議員の調査研究活動の充実を図るために必要な経費の一部を補助するものです。

令和6年度の政務活動状況を報告します

詳しくは、矢巾町議会ホームページをご覧ください。



議会アドバイザー設置 委嘱状を交付しました



佐藤教授に委嘱状を交付

令和7年6月6日、矢巾町議会では、議会や議員の活動の活性化と充実、円滑な議会運営を行うために「矢巾町議会アドバイザー」を設置しました。

それに伴い、議会改革などに精通し、学識経験の高い青森大学社会学部佐藤佐藤淳教授に委嘱状を交付しました。

今後、佐藤教授には研修会や個別相談などを通じて、さまざまなアドバイスをいただくこととしていきます。委嘱期間は令和9年度末までです。

対談

広報広聴常任委員会広報分科会の横澤駿一委員長が、地方議会改革の支援を続けている佐藤教授に、議会の変化とその可能性についてお話を伺いました。

横澤 地方議会に携わることになった「きっかけ」について教えてください。

佐藤 大学卒業後に銀行勤務を経て、公共経営を学ぶため大学院へ進学しました。そこで地方自治と議員の役割に関心を持ち、以来約20年にわたり議会改革支援に携わっています。

横澤 岩手県内の各議会でご講演やアドバイザーをなされているようですが、特別な縁があったのでしょうか。

佐藤 はじめは滝沢市議会や遠野市議会などからお声がかかり、それから自然な縁の広がりで関わってきました。

岩手は全国的にも、改革に意欲的な議員が多い地域だと感じています。

横澤 近年の地方議会に変化は感じますか。

佐藤 なり手不足の課題はありつつも、議員にも「若返り」や「多様性」の広がりを感じており、新しい風が吹き始めていると思います。

横澤 議会改革の力は何でしょうか。

佐藤 「チーム」を意識することだと思います。個人活動ではなく「議会として」の活動を意識的に取り入れ、「議会として」の力を発揮していくべきだと思います。

横澤 矢巾町議会の今後に期待することはありますか。

佐藤 現在の取り組みの質を向上させ、実効性を高めていくこと。それには「対話」が重要です。ぜひ議員間での対話、そして町民との対話を行っていただきたいです。

「住民福祉の向上のために、議会は何ができるか。」その答えを、対話から探ることが、今後の矢巾町議会に求められていると考えています。

ご経歴

青森大学社会学部
教授 佐藤 淳

・1968年、青森県十和田市生まれ。

・早稲田大学商学部卒業後、さくら銀行（現三井住友銀行）入行。法人部門を中心に12年間勤務後退職。

・日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究科修了、社会福祉士。

・早稲田大学大学院公共経営研究科修了。

・月刊ガバナンス（ぎょうせい）で「対話する議会・議員」の連載。

・議員NAVI（第一法規）で「地方自治の今をつかむ！」の連載。

・あなたにもできる議会改革「議会改革実践マニュアル」（第一法規）など共著。

・早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員。（2025年4月1日からは早稲田大学マニフェスト研究所は早稲田大学デモクラシー創造研究所に統合。）



議会を傍聴して



ささき よしみ さん (矢巾2区)
佐々木 四士美 さん (矢巾2区)

知人の議員から議会傍聴の声掛けがあり、6月13日に傍聴しました。議会は午前10時に開会し、一般質問が行われ、当日は2人の議員の質問を聞くことができました。

私が高齢者であることや、民生委員の経験があることから「高齢者福祉や認知症対策」の質問に耳を傾けました。

福祉といっても、業務内容は幅広く多岐にわたります。

高齢者が抱える身近な問題として、生活環境、介護環境などや、認知症対策に対する質問に、町長の誠意ある答弁がなされており、他の議員の質問にも同様の答弁を行っておりました。

他にも高齢者が抱える問題として健康問題、家庭問題など多くの課題があると思われまます。問題解決に向け、矢巾町と議員の皆さんが一体となり「町民が安全で安心して暮らせるまちづくり」をお願いします。

対話する議会 に向け、議員 研修を実施

令和7年6月6日、議会のあり方調査検討特別委員会
は、第1回研修会を開催しました。

議会アドバイザーの佐藤淳教授を講師として「町民と議員をつなぐ会の効果的な開催について」を議題に、SOUNDカードの活用とファシリテーションの仕方と学びました。

SOUNDカードとは「対話」の補助をする道具です。このカードを使うことによって、誰でも、どのような話題でも意見や気持ちを言いやすくなると言われています。研修会では、佐藤教授からファシリテーションの極意を学びつつ、SOUNDカードに触れて議員間で「対話」を行い、つなぐ会に向け資質向上に努めました。

矢巾町議会では、町民と議員をつなぐ会においてSOUNDカードを活用し、町民の皆様の声をお聴きしてまいります。普段、意見を思うように言えないという方も、ぜひご参加いただければ幸いです。

